

# 美しい朝が来る。この歓びを、つないでいこう。



海と共に生きるまち、宮城県気仙沼市。「船の上で朝日を見ながら作業するのが気持ちいいんです」と言う大畑直樹さんは、定置網漁師2年目の24歳。「将来は魚を獲るだけじゃなく、魚の魅力や価値を自分の手で伝えていきたい」と夢を語ります。

「漁師の生き様って本当にかっこいい。そこに惚れ込んで」。根岸えまさんは、震災ボランティアをきっかけに移住。漁師のための食堂と銭湯を立ち上げ、現在は若手漁師をサポートする活動をしています。「気仙沼を、日本一漁師さんを大切にするまちにしたい」。

「外から来る船や人をずっと受け入れてきた。震災の時も沢山の人が来て手を差し伸べてくれた。「よその人が光」と思ってるんです」。唐桑半島で民宿を営む菅野一代さんの言葉の通り、互いを受け入れ合い共に歩む人々の姿は、海に差すあたたかな朝の光のように、まちの未来を照らしています。

この土地で生きる歓びを、ずっとつないでいきたいから。新しい風に心を開いて、進んでいこう。手を取り合って。

それはきっと、明日を変える力になる。



世界有数の漁場である三陸沖に面し、全国から漁船が集まる漁業のまち・気仙沼。湾の入り口に大島を抱くため常に波穏やかで天然の良港と言われる。リアス海岸に囲まれた唐桑半島では牡蠣などの養殖がさかん。

## 2025年、共に創る。共に生きる。 大和ハウスグループ

